



**資産運用・貯蓄を
これから頑張る人向け講座**

第一の要素 支援があるもの

奨励金（会社からの支援）や税制優遇（国からの支援）があるもの

第二の要素 確実なメリットがあるもの

積立という「行為」に支援があるもの

第三の要素 不確実であるがメリットのあるもの

運用益は出ることもあれば、出ないこともあります。
運用益が出た場合、そこにかかる税金が非課税なもの

前提は、「長期間での活用」と「手段は全部活用」です。

主な制度と要素構成

	支援があるもの	確実なメリットがあるもの	不確実であるが メリットがあるもの
持株会	○	○	—
NISA (小額投資非課税制度)	○	—	○
旭化成 DC (確定拠出年金)	○	○	○

運用益非課税のメリット

通常

投資額100万円

運用益20%税金

(8万円しか手元に残らない)

運用結果110万円

利益10万円

NISA・DC

投資額100万円

運用益は
非課税

運用結果110万円

利益10万円

65歳を迎えた方が特定の年齢まで生存する確率

- 65歳を迎えた方が特定の年齢まで生存する確率をみると、2015年時点で65歳を迎えた1950年生まれですでに、男性の**3割以上**、女性の**約6割**が90歳まで長生きする見込みである。
- 1990年生まれ（2055年に65歳）については、男性の**4割以上**、女性の**約7割**が90歳まで長生きする見込みである。さらに、女性については、**約2割**が100歳まで長生きする見込みである。



	男性			女性		
	80歳	90歳	100歳	80歳	90歳	100歳
2015年に65歳 (1950年生まれ)	73%	35%	4%	87%	60%	14%
2025年に65歳 (1960年生まれ)	75%	38%	5%	89%	64%	17%
2035年に65歳 (1970年生まれ)	77%	41%	6%	90%	67%	19%
2045年に65歳 (1980年生まれ)	78%	43%	6%	91%	69%	20%
2055年に65歳 (1990年生まれ)	79%	44%	6%	91%	69%	20%

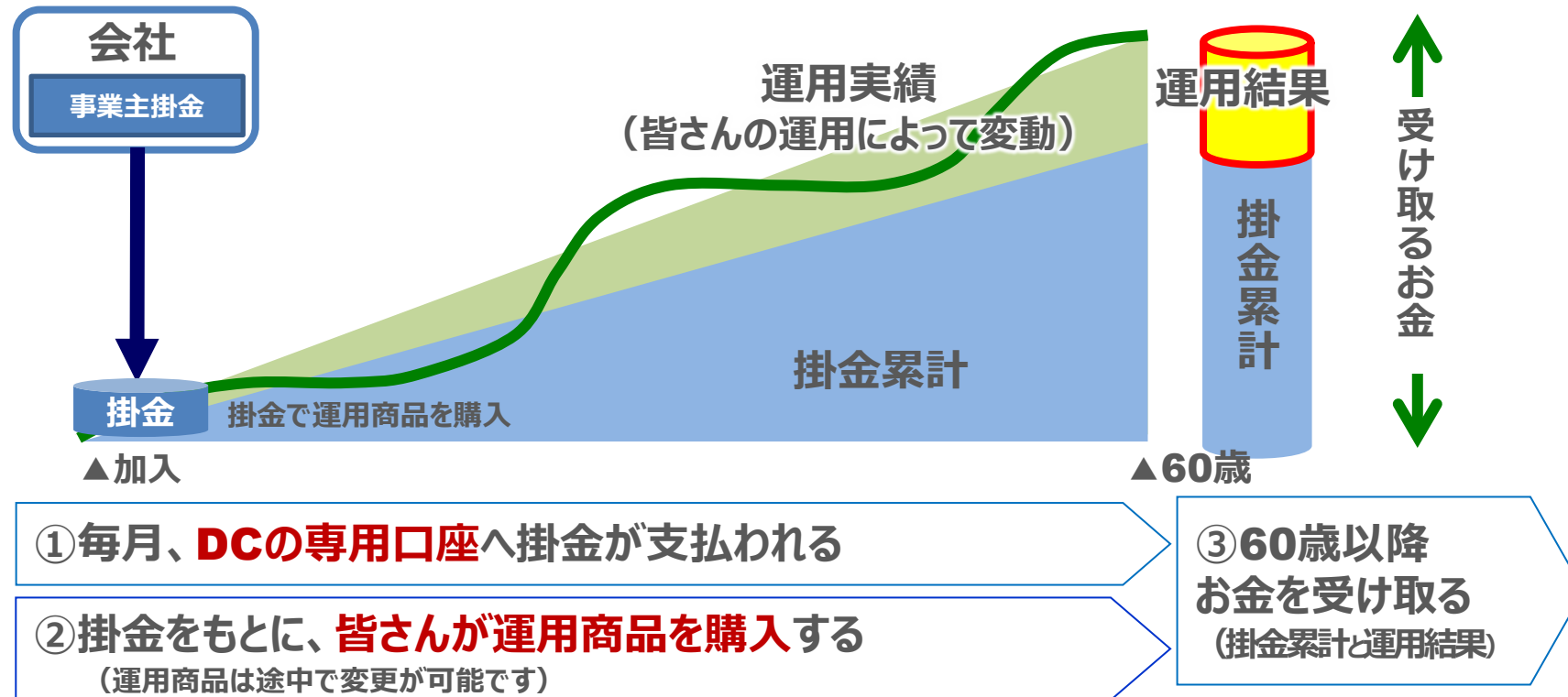
第10回社会保障審議会 年金部会資料1

「今後の年金制度改正について」

(2019年9月27日)より抜粋

※厚生労働省「完全生命表」「簡易生命表」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」より試算したもの。

DCは、会社が拠出した掛金をご自身で運用し、60歳以降に年金または一時金で受け取ります。ご自身でDC資産の運用、管理をしていくことが重要です。



掛金は65歳までとなります。受取りが完了するまで、DC口座の中の資産は運用益非課税です。加入中の口座管理手数料は会社負担となります。 ※原則、60歳以降退職前に中途引き出しできません。

- ◆ 積立可能額 = 27500円から最低掛金額額を引いたもの
- ◆ 最低掛金額から上限まで増額する単位について月額1000円単位での増額が可能
- ◆ DC掛金変更時期
2月~4月（夏期賞与からの拠出分）と8月~10月（冬期賞与からの拠出分）の2回。
- ◆ 65歳（定年退職時）まで利用可

拠出時

掛金に対する課税はありません。

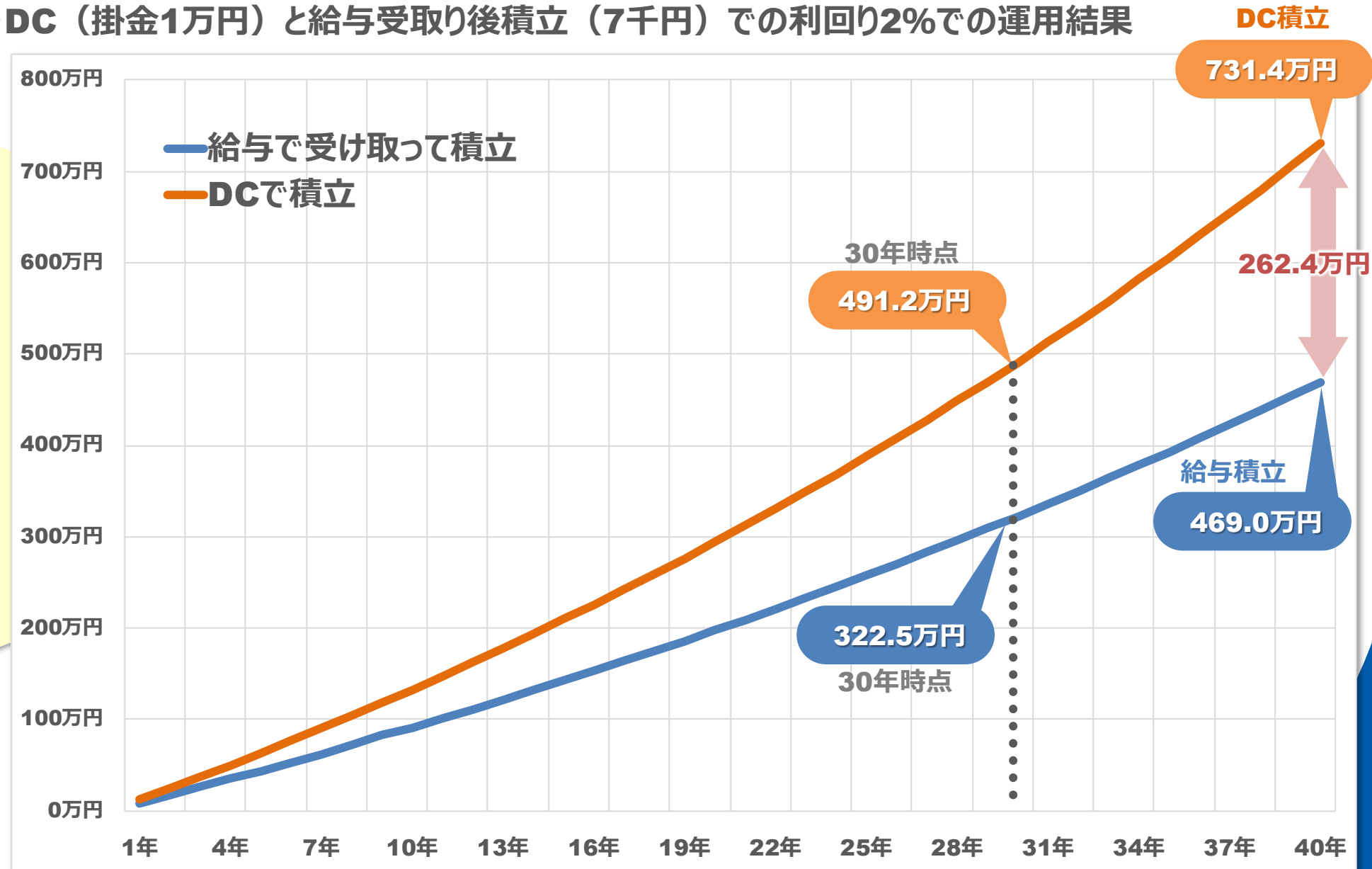
所得税・住民税が取られずに積立ができる
つまり、積立金に対して最低でも20%の優遇があります。

少額でも
メリットあり

DC積立と給与積立の運用成果比較

▶ DC（掛金1万円）と給与受取り後積立（7千円）での利回り2%での運用結果

※給与受取後積立は、税金・社会保険料で30%引かれ、運用益に20%課税されると仮定して試算。



手段として、
DCの税制優遇はとても有効！

活用しないのは**もったいない**。

主な制度と要素構成

	貯蓄としての活用可	投資信託の購入
持株会	—	—
NISA (小額投資非課税制度)	—	○
旭化成 DC (確定拠出年金)	○	○

運用商品は大きく分けて2種類

△△投資信託

○△投資信託

△○投資信託

○□投資信託

投資信託

増やすことを重視した、
実績連動型の商品。
元本を下回ることも。

○○定期預金

□□年金保険

元本確保型商品

貯めることを重視した、
安定性の高い商品

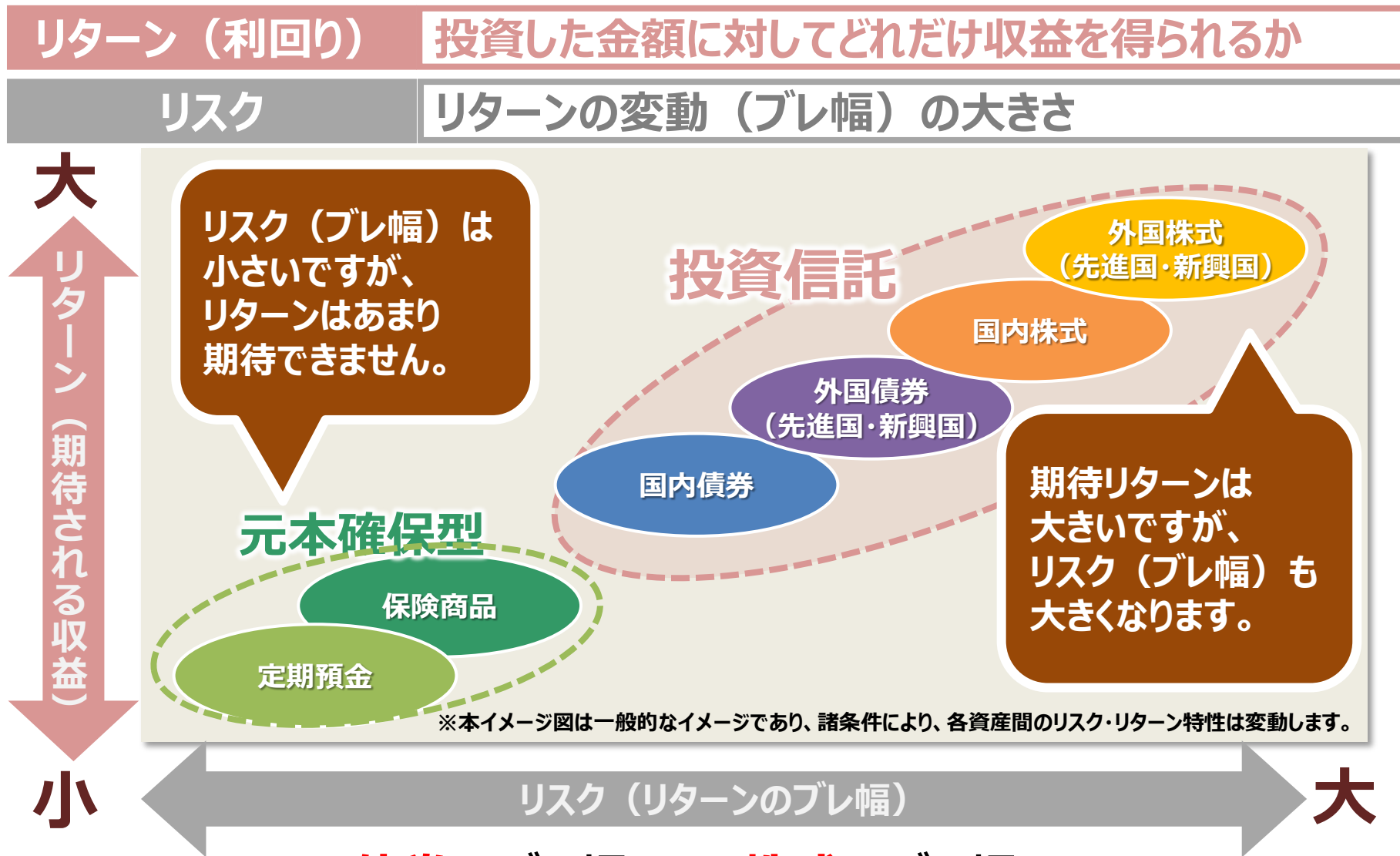
投資信託 = 「株、債券」などの詰め合わせパック



■ 手数料・信託報酬がかかる

■ デフォルト（債務不履行）リスク

元本確保型商品と投資信託のリスクとリターン



債券のブレ幅 < 株式のブレ幅

国内資産のブレ幅 < 先進国資産のブレ幅 < 新興国資産のブレ幅

※国内資産と比較して「為替変動リスク」があるため、外国資産の方がブレ幅が大きくなります。

元本確保型商品では、「インフレリスク」に注意！

元本確保型の商品は、安定性は高いですが、物価上昇には対応できません。

安 定 性

元本が減ることはない。
確実に資産形成が可能。

元本確保
型商品

収 益 性

増える可能性はほとんどない。
物価上昇率を下回る。

価額が変動するため、
元本割れの可能性あり。

投資信託

市況によっては、大きく
資産を増やすことが可能。

インフレリスク

物価上昇により、
お金の相対価値が
下落するリスク。



DCは60歳まで引き出せない資金だから、ここは気を付けましょう！

インフレで、預貯金は実質的な価値が目減りする！

仮に現時点で100万円で購入できる車が、将来120万円になったとしたら...

ほぼ金利0%の**預貯金**で保有していた場合には、**実質的に100万円の価値が目減りしてしまう**ことになります。

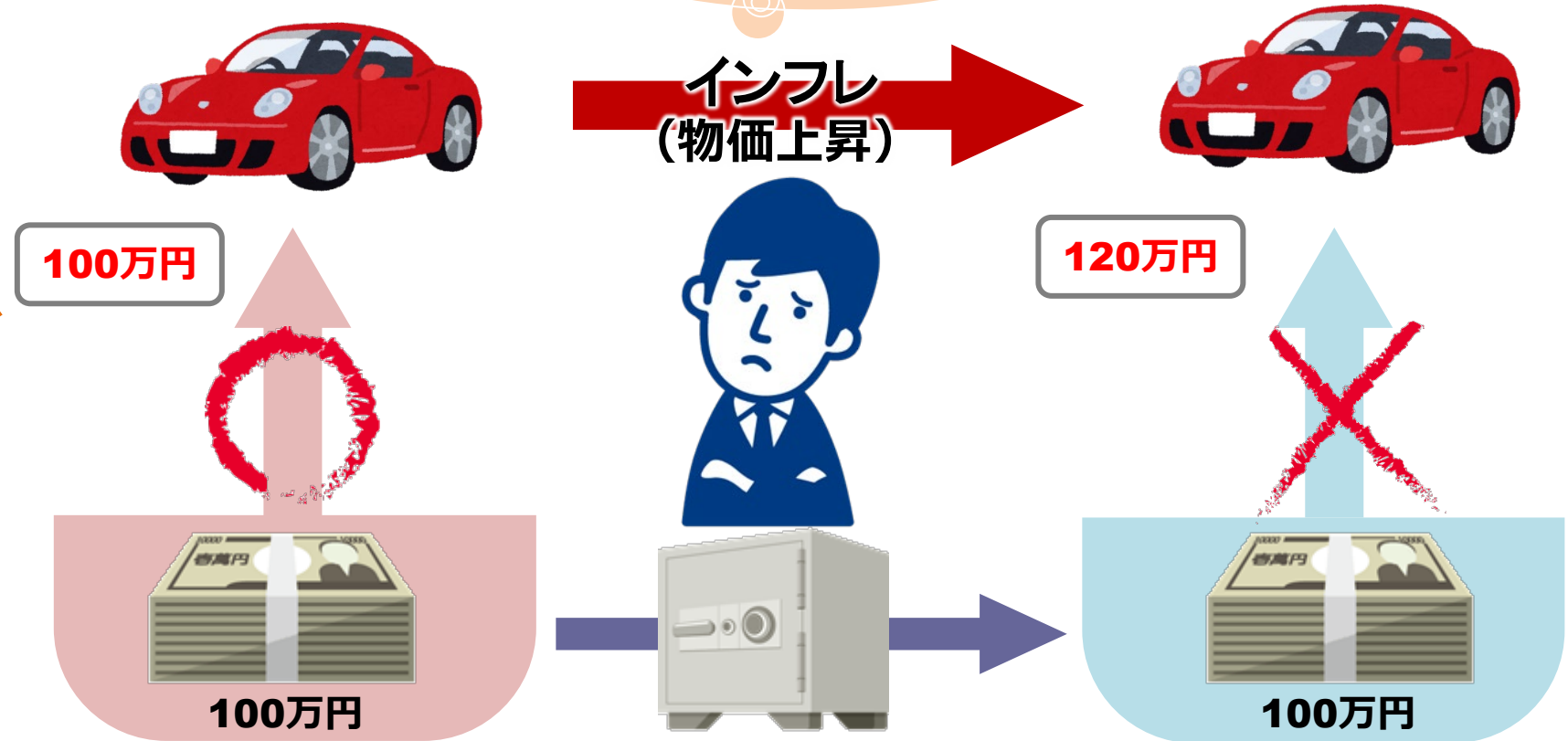
物価上昇の要因

原材料
価格
の上昇

円安

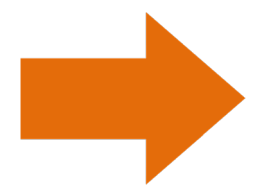
政策
インフ
レ
目標

等々





すぐ使うお金

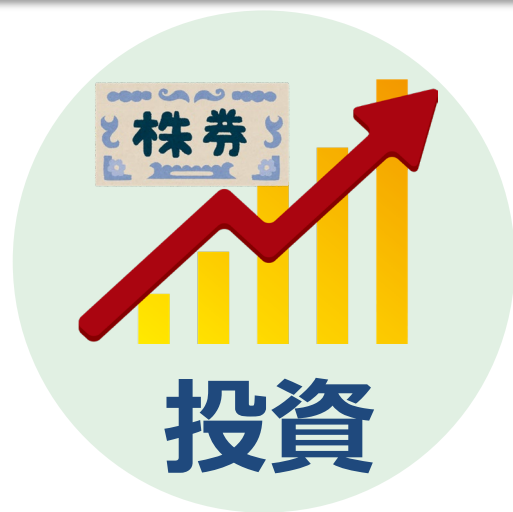
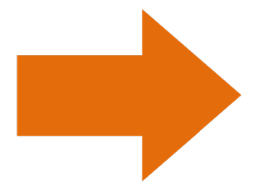


預金

インフレに対応するためには「投資」が必要



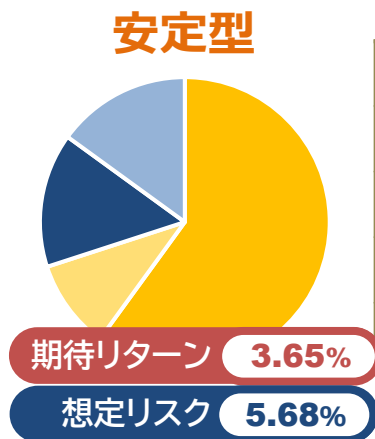
中長期で準備するお金



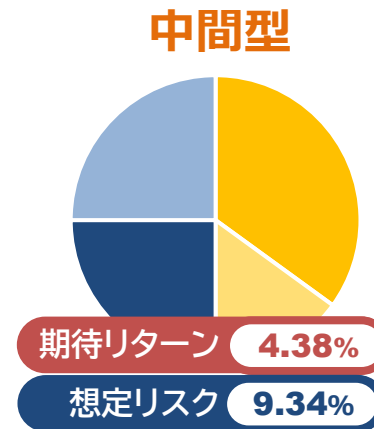
投資

実質価値を意識する資産配分を考えてみよう

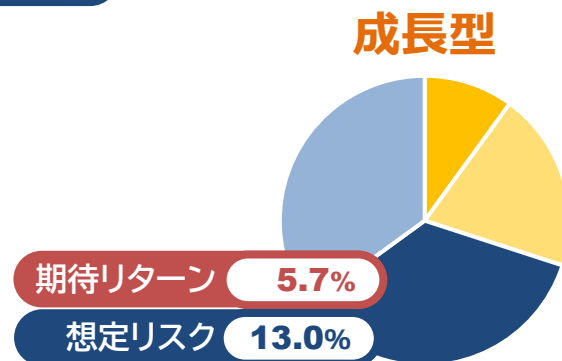
直近のインフレ率は3.2%（2025年平均）でした。
以下運用利回り別のモデル配分（過去20年実績から試算）を
参考にご自身の資産配分をチェックしてみましょう。



資産配分	割合
国内債券	60%
外国債券	10%
国内株式	15%
外国株式	15%



資産配分	割合
国内債券	35%
外国債券	15%
国内株式	25%
外国株式	25%



資産配分	割合
国内債券	10%
外国債券	20%
国内株式	35%
外国株式	35%

この資産配分は、2026年3月31日を基準日として過去20年間の月次実績を基に算出しています。
将来的に期待リターンが約束された実績ではありません。

「投資は余裕資金でやるもの」

と言われてきましたが、

「少額から早く始める」「長期積立投資」

が現在の常識になっています。

『投資がよくわからない』

『投資がよくわからない』

→目減りする可能性を限りなくゼロにして
増やす可能性を考える方法を知る。

安定して収益を得る方法

資産形成、資産運用は「長期・積立」が基本！

長期
投資

運用する時間で
リスクを
平均化

積立
投資

上下する
購入価格を
平均化

分散
投資

複数の商品で
リスクを分けて
平均化

これだけ押さえておけば、自然とお金が育てられます。

難しく考えるのは
やめましょう

基本的な考えがわかれば
OKです



資産運用と「あるスポーツ」には、
共通点があります。
この「あるスポーツ」とは
なんでしょう？

- a. サッカー
- b. 剣道
- c. 柔道



正解は、**C. 柔道** です。

柔道で初めに習うのは「**受け身**」です。

投げられたときに**大きなケガをしない**

ようにするためです。

資産運用の基本も同じく、

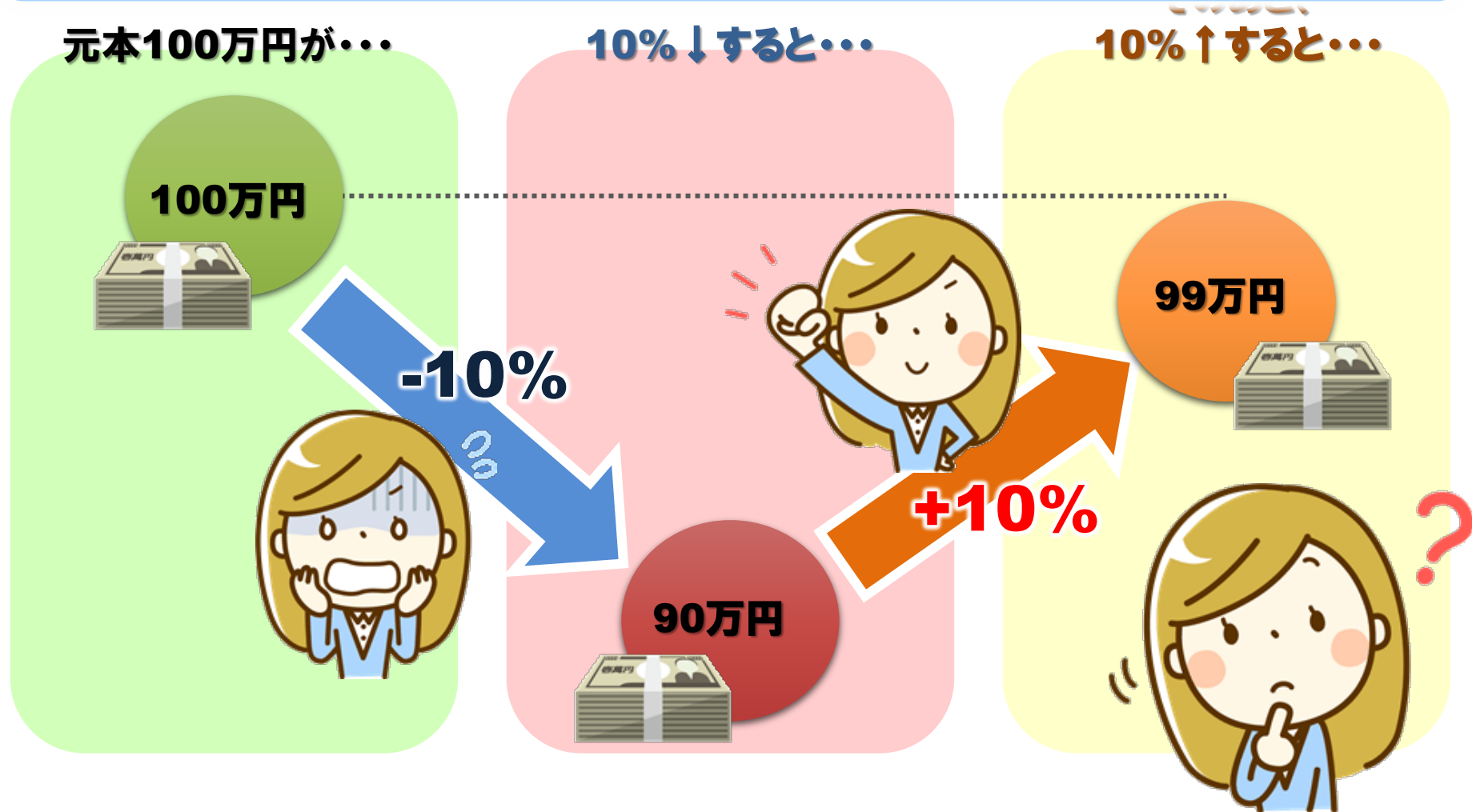
「ふやすこと」について学ぶ前に、

「ケガをしない方法」を学ぶことが大切なのです。



資産運用で「大けがするといけない理由」

下がった大きさと同じ割合で戻っても、**元本には戻りません！**



大ケガしないための
運用商品の
【選び方】
【持ち方】
【買い方】

基本的な考えは

『平均』

理由は

「将来は誰にもわからないから」

いちばん値上がりする
運用商品はどれでしょう？

分散投資すれば、一位にもなりません最下位にもなりません

■ 資産別の年度リターン率による順位（2015年～2024年）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1位	国内株式 12.1%	国内債券 3.0%	国内株式 22.2%	国内債券 1.0%	外国株式 29.4%	外国株式 9.4%	外国株式 38.8%	国内株式 -2.5%	外国株式 33.0%	外国株式 35.1%
2位	国内債券 1.1%	外国株式 3.6%	外国株式 19.3%	外国債券 -3.5%	4資産分散 18.8%	国内株式 7.4%	4資産分散 24.8%	外国債券 -4.8%	国内株式 28.3%	4資産分散 27.3%
3位	4資産分散 -0.2%	4資産分散 1.4%	4資産分散 13.4%	4資産分散 -8.2%	国内株式 18.1%	4資産分散 7.1%	国内株式 12.7%	4資産分散 -4.8%	4資産分散 26.4%	国内株式 20.5%
4位	外国株式 -0.9%	国内株式 0.3%	外国債券 5.0%	外国株式 -10.7%	外国債券 5.4%	外国債券 5.1%	外国債券 4.0%	外国株式 -5.1%	外国債券 14.3%	外国債券 9.6%
5位	外国債券 -4.5%	外国債券 -3.7%	国内債券 0.1%	国内株式 -16.0%	国内債券 1.6%	国内債券 -0.7%	国内債券 -0.1%	国内債券 -5.3%	国内債券 0.5%	国内債券 -2.9%

国内株式：東証株価指数（TOPIX、配当込み）

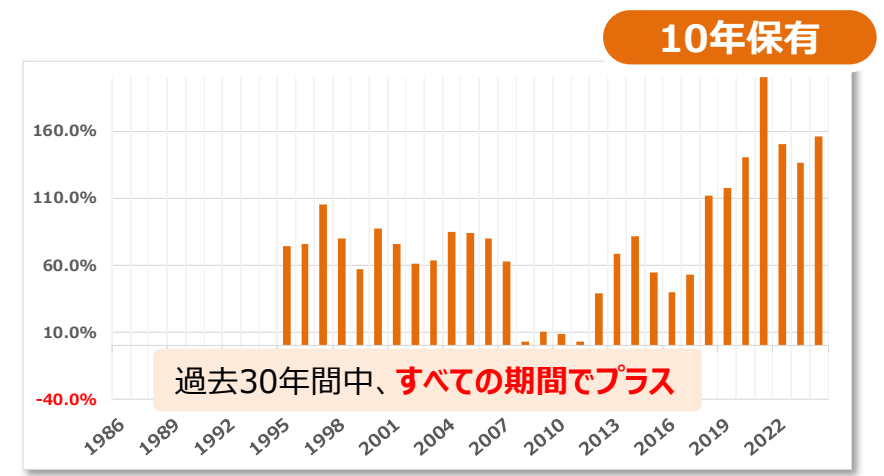
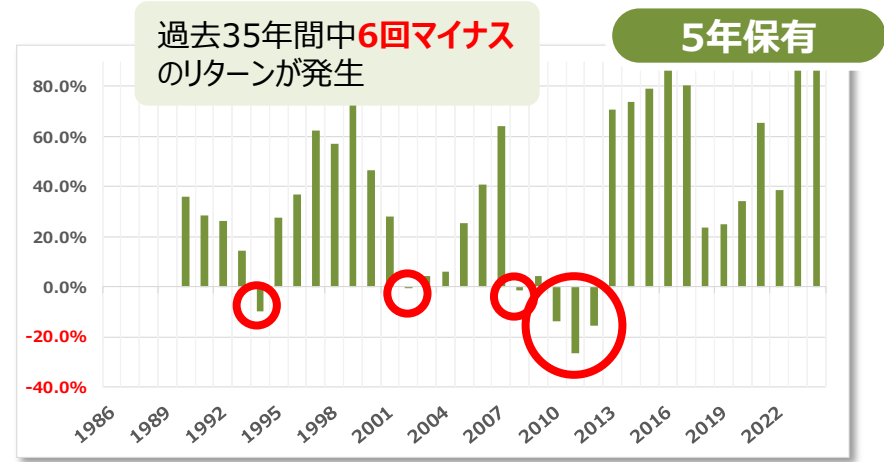
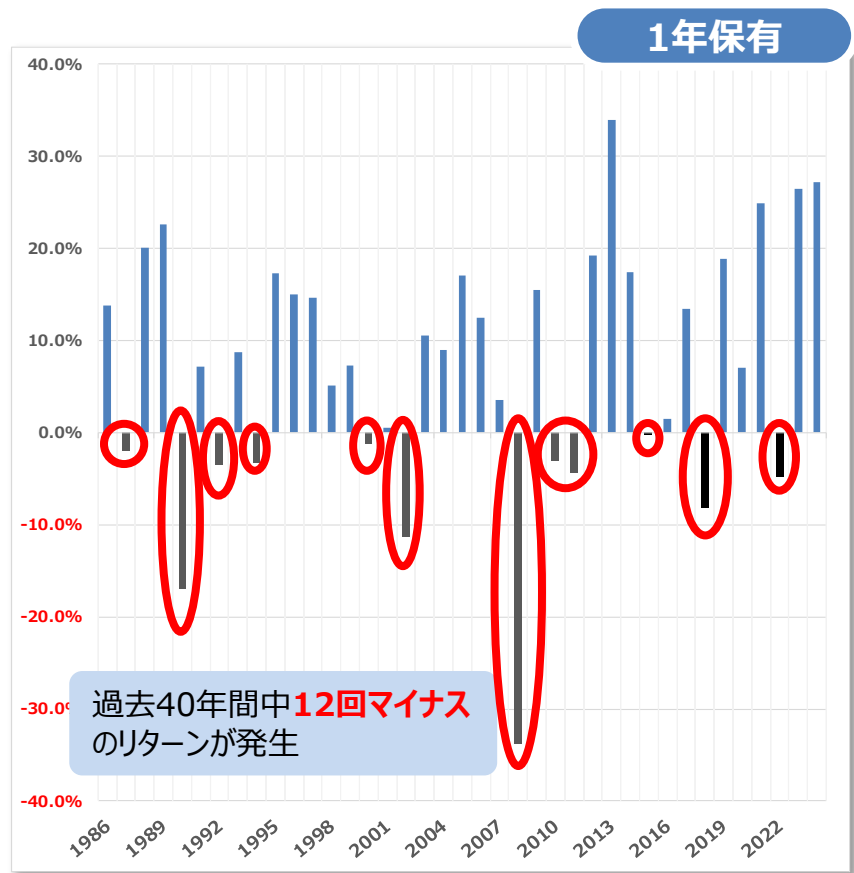
国内債券：ダイワ・ボンド・インデックス（総合）

外国株式：MSCI世界株式（配当込み、円換算ベース）

外国債券：FTSE世界国債（除く日本、円換算ベース）

※いずれも、1985年（年末）を100として、指数化した値を元に、前年同月からの伸び率を計算しています。

その年、大きく下がっても、長期投資で、前後の収益で取り戻す

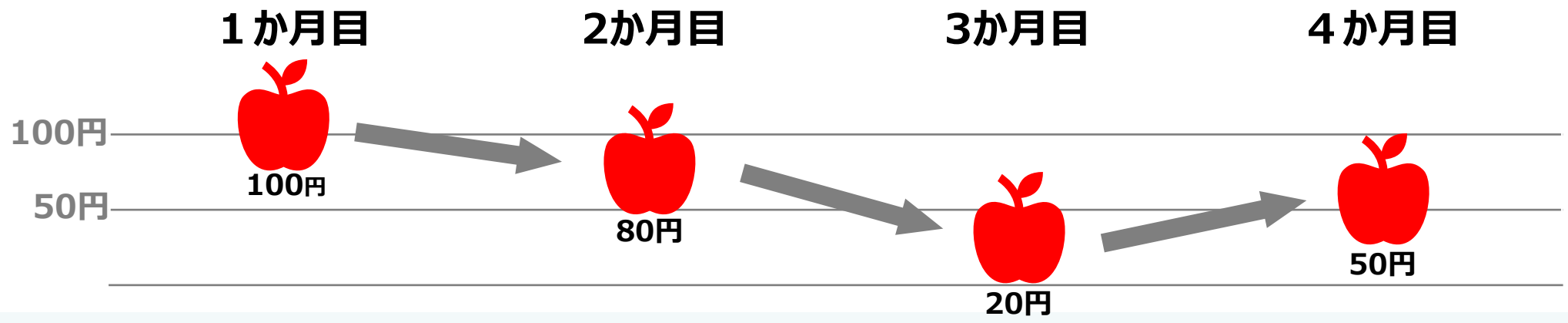


国内株式：東証株価指数（TOPIX、配当込み）
 国内債券：ダイワ・ボンド・インデックス（総合）
 外国株式：MSCI世界株式（配当込み、円換算ベース）
 外国債券：FTSE世界国債（除く日本、円換算ベース）
 ※いずれも、1985年（年末）を100として、指数化した値を元に、前年同月からの伸び率を計算しています。

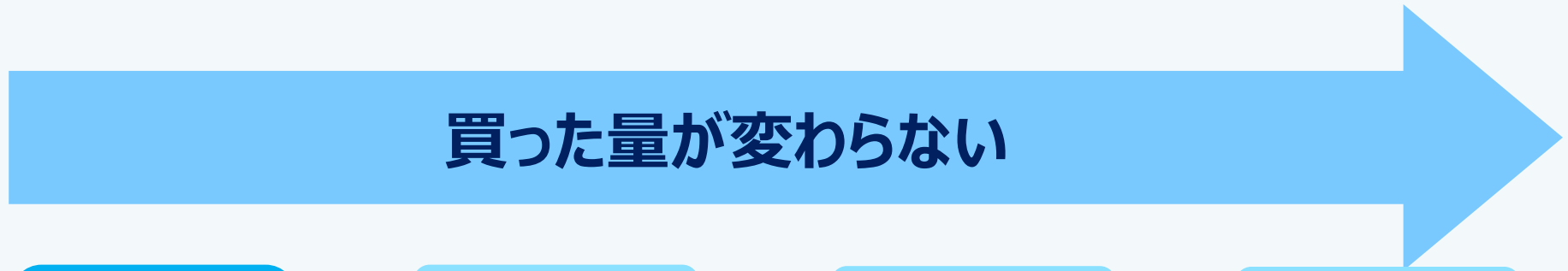
※データは、簡単のため年度ごとのリバランス等は考慮していません。
 該当年に4資産に均等分散にて購入し、各保有期間後にすべて売却した場合のリターン率を示しています。

いつ始めるのがいいの？

価格が変動するリスクが心配【一括投資】



専用口座



口座の残高
= 量(口数) × 価格

	400個	400個	400個	400個
計	400個	400個	400個	400個

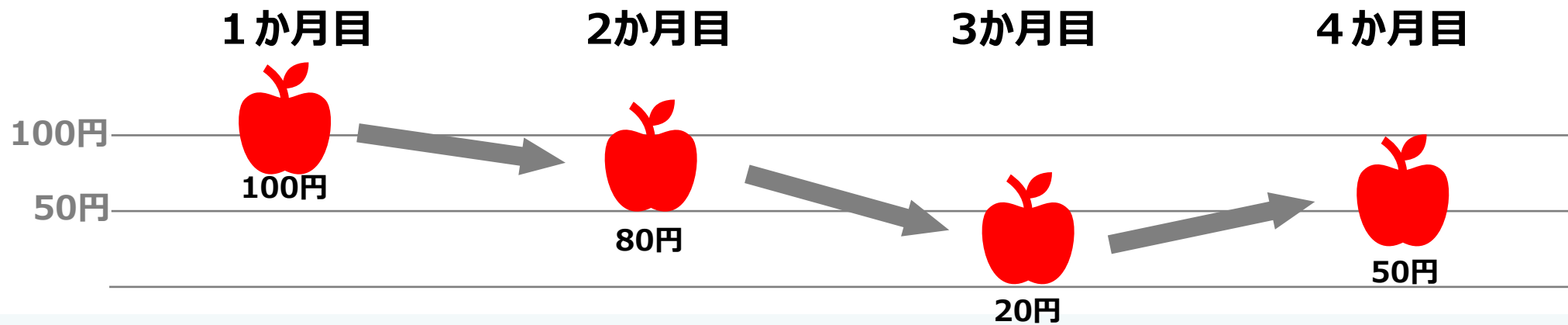
投資成績

400個 × 50円 = **20,000円**

価格が変動するリスクが心配 【積立投資】



毎月1万円



専用口座

買った量が
積み上がる

口座の残高
= 量(口数) × 価格

	100個	125個	500個	200個
	100個	100個	125個	500個
			100個	125個
				100個
計	100個	225個	725個	925個

投資成績

925個 × 50円 = **46,250円**

長期投資と短期投資のリスク幅の違い

世界株と日本株の推移

上下はあるが、長期で見ると右肩上がり



実際の運用レポート（例）

長期投資 約13年

分散投資 2.2万円/月

積立投資

国内株式・外国株式
バランス型



現在の資産状況

2023/02/08 現在

各取引の結果は受渡日翌日に資産残高等に反映されます。

資産残高 5,123,418円

— 拠出金累計 2,975,227円

損益 2,148,191円

運用利回り (2022/12末時点) 7.5%

▶ [運用利回りの分布状況を見る](#)

② [補足事項](#)

努力が才能が必要



難しそう・・・



欧米で発達した金融工学に基づく考え方の取り組みでOK

口座の仕組み

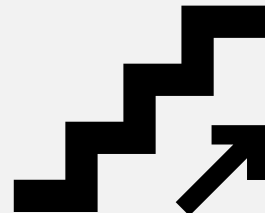
長期投資

じっくり長く運用



積立投資

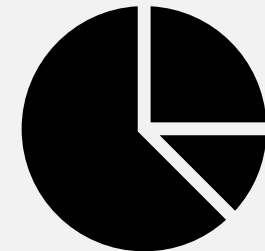
一定額を
決まった間隔で運用



投資信託

分散投資

世界中の資産に
分散して運用



どれが上がるかを考えるより、

分散・長期・積立(継続)

「平均」を意識することが

大ケガをしない

運用商品を選ぶことのポイントです。

『どれか一つというより種類を持つ』



どうやって分散する？

分散投資例

- 性格の異なる商品に

債券に投資する商品

+

株式に投資する商品

- 国際分散投資

国内

+

外国

+

新興国

自分で組み合わせる

こんな人に向けてます

- ・資産配分は自分で決めたい
- ・個別資産の値動きを把握したい

注意ポイント

- ・値動きにより、思っている資産配分が崩れたときは、自身で調整する必要がある



バランス型を活用する

こんな人に向けてます

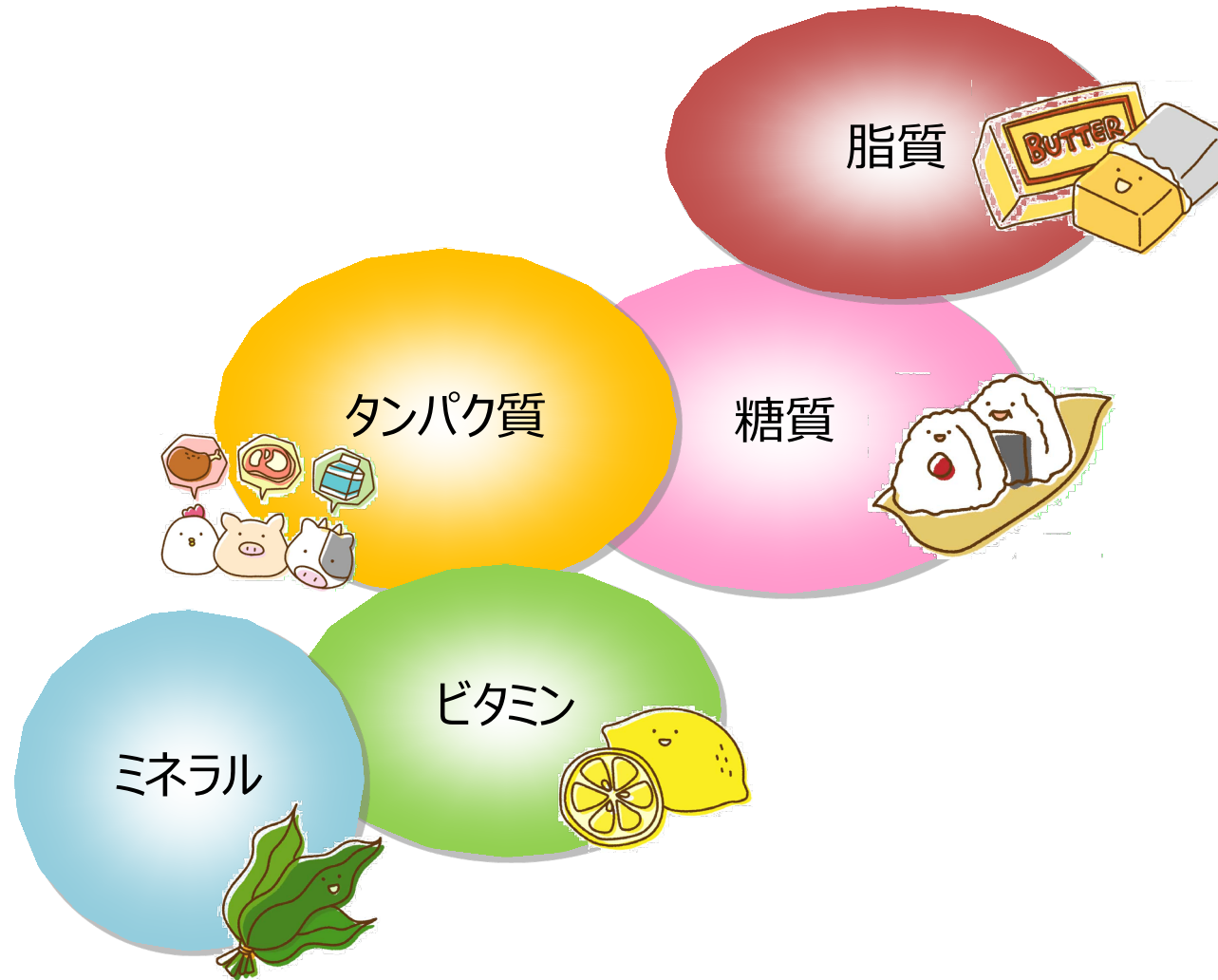
- ・運用初心者
- ・あまり手間をかけたくない

注意ポイント

- ・国内株式だけ売却したい、といったことはできない

※商品選びについては、セミナー「運用商品、これだけわかれば大丈夫」も参考にしてください。

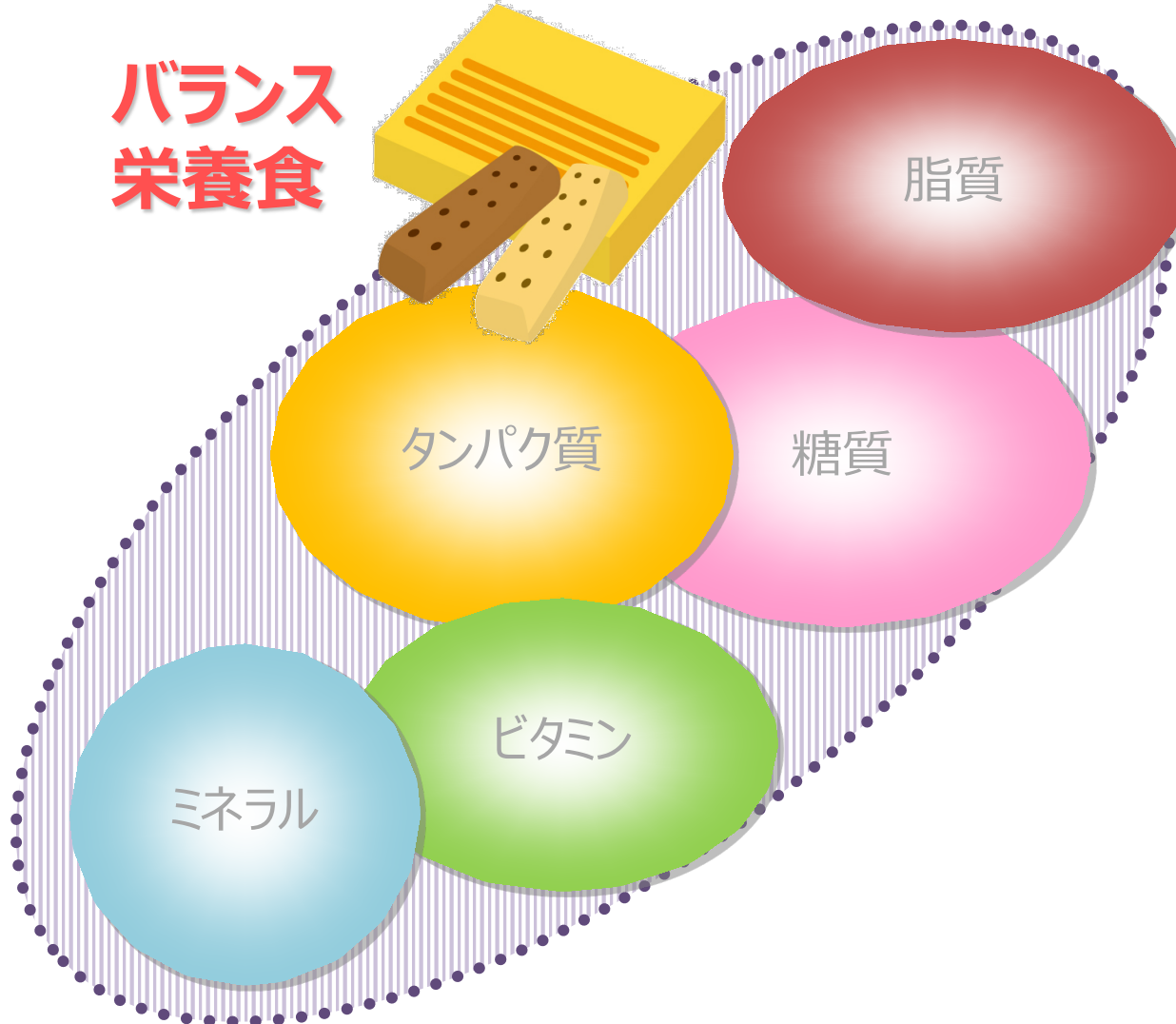
理想的な健康を保つための必要栄養素



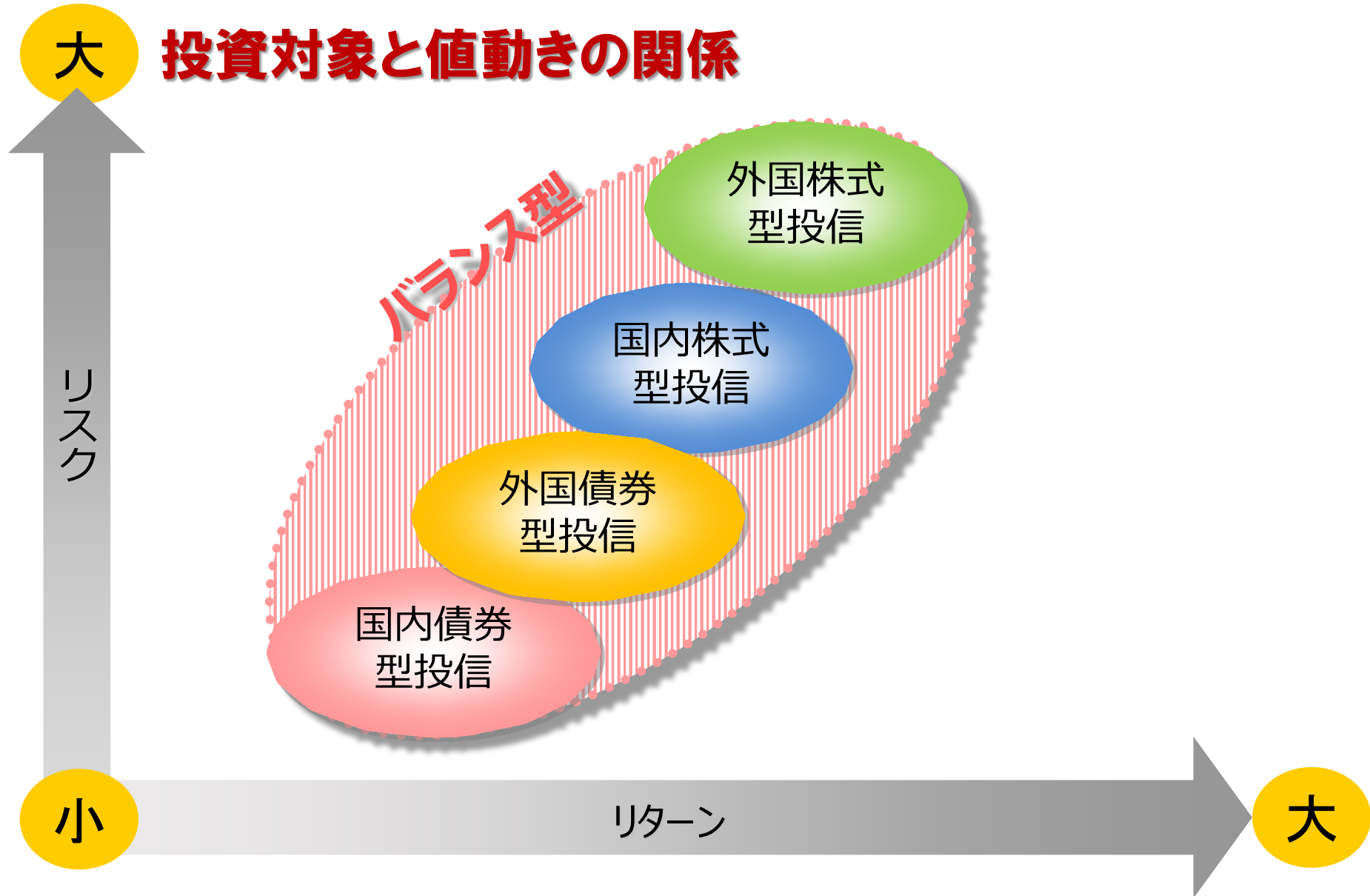
必要な栄養素に合わせて
献立を考えていく

理想的な健康を保つための必要栄養素

バランス
栄養食



手軽なバランス栄養食を
活用する



さいごに

上手に資産形成するために
活用できる制度を知り、
ご自身で選べるようになりましょう。

コレがおすすめ!!

株というと、ハイリスクなイメージがありますが、**持株会**は長期的な購入を行うことで平均コストを下げられ、価格変動の影響も軽減できることが大きなポイントです。

毎月1,000円からでも投資が始められます。
今日からあなたも株主の一員となって、長期的に会社の成長とともにあなたの財産をふやしてみませんか？

ポイント1

拠出金に対して会社から10%の奨励金が支給されます！



ポイント2

新規入会時には、「特別奨励金」も支給されます！



ポイント3

持株会は大株主です！会社の成長と共に自分の財産も増やしていきましょう！



ポイント4

新規加入はいつでも受付しています！



DCとNISAを同時に活用 ～効果的な資産形成を実現～

- **DC**および**NISA**のそれぞれの特性を踏まえ、老後資金に備えた資産形成として**DC**を活用し、ライフイベントに備えた資産形成として**NISA**を活用することで効果的な資産形成を実現しましょう。



双方を活用することで効果的な資産形成を実現

企業型DCとNISAは、特徴を生かして使い分けを！

拠出した掛金で
老後資金を準備する制度

投資で得られた収益に
税金がかからない制度

		企業型DC	NISA
拠出可能年齢		最長65歳まで	上限なし (1人1口座のみ)
税制 の 優遇	拠出時	拠出金は全額非課税	—
	運用時	運用益に対して非課税	運用益に対して非課税
	受取時	公的年金等控除・退職所得控除の対象	—
資産の引出し		原則60歳以降の退職後	いつでも可
その他の注意点		75歳までの間に受取り開始	信託報酬等

① 少額から始める

一度に大きな資金を資産運用に使わない、まずは少額から変動を確認する。

② わからないことは相談

わからないまま始めず、専門家や先輩に聞いてみる。

③ 長く続ける

1、2年だけで成果がわからない、5年以上は継続してみる。



金融機関に関わらず これからも、今のもの 最適化への個別サポート



- DC・NISA・年金・資産全体を含めた設計サポート
- さまざまな制度について
商品選択と手続き方法までサポート
- オンライン／個別対応